

「胴割れ米」発生防止について

米の収穫も中盤に入ってきました。現在、玄バラ調整施設での品質は、一部、胴割れの発生が多いサンプルが見受けられます。

立毛中のほ場での発生も考えられますが、乾燥時における発生が懸念されています。

胴割れは乾燥初期の籾水分が高い方が発生しやすいので、乾燥開始時の籾水分が25%以上の場合には、40℃以下（毎時乾減率が0.5%程度）で乾燥を開始し、籾水分が25%未満になったら、通常の温度で乾燥（毎時乾減率が0.5%～0.7%）を行ってください。

今後の収穫は、「**風の子もち**」が中心となりますが、胴割れが発生しやすい品種ですので、乾燥は適正な温度を守って下さい。

ほ場管理の注意点

秋のほ場管理が行われてきていますが、作業の効果を上げるためには、ほ場状態が乾燥していることが大切です。

降雨後の水がたまっている状態での作業は、車輪や作業機での土壌の練り返し状態を作ります。春の乾きをよくするためには無理な作業は控えましょう。

何日かおいて滞水の無い状態で作業を実施して下さい。

また、プラウ耕・スタブル耕は、特に土壌が乾いた状態で実施し、春の融雪水が早く引くようなほ場でのみ実施しましょう。

水が引きにくい条件の場合は、溝切りが春のほ場乾燥に効果的です。積極的に実施して下さい。

農作業安全は日頃の心がけが大切です。作業が遅れ気味ですが、焦らずに、安全対策を心がけ、地域ぐるみで農作業安全に取り組みましょう。